

令和2年6月20日

ご関係各位

NPO 法人オー・エイチ・ピー
(大阪メチャハッピー祭実行委員会)
事務局長 黒川 弘章

『今年のお阪メチャハッピー祭は、通常開催ではなく、
これまでにない、特別な形での開催とさせていただきます』

拝啓

いつも、大阪メチャハッピー祭に温かなご支援を賜り、心から感謝しています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大小さまざまな影響が多方面に出ている中、踊りの祭典、大阪メチャハッピー祭も、10月11日(日)の開催の可否に関しまして、理事会で検討を重ねてまいりました。

現在の感染状況や今後の予測、演舞チームへのアンケート、その他政府の方針や専門家を含めた各方面のご意見等も踏まえて、今年のお開催の方向性を出させて頂きました。まずはそれに至るまでの経緯をご説明いたします。

大阪メチャハッピー祭「本祭」は例年、複数の会場で、踊り子だけで2~3千人が参加されます。そして保護者や関係者、公共スペースゆえの不特定多数の観客は、すべての会場を合わせますと数万人単位にのぼります。

現在(6月上旬)大阪では感染の拡大が減少傾向にありますが、これは我々のような団体のイベント自粛だけでなく、大きな痛みを伴う様々な自粛や、医療関係者や行政の方の懸命の努力の上でやっとこの状況が成り立っているものだと考えています。今後必ず来ると言われている第二波のことや、数千、数万に及ぶ踊り子や観客の安全面を考えますと、まだまだ全貌が未知数のことゆえにたいへんな準備が必要となって参ります。そのため、「例年通り」の開催は、今年度に関しては難しいと判断いたしました。

またそれなら縮小しての開催を、と、①一度に演舞する人数を大幅に減少させること、②演舞スケジュールにゆとりを持たせた時間配分にする、③複数会場ではなく一つの会場に開催場所を絞ること、④無観客での開催なども、様々なシミュレーションをもとに検討をいたしました。しかしながらどうしても、集合型イベント特有の、人が多く集まる、いわゆる「密」を避けながらの開催をこの時点で判断することは困難でありました。

ただ、アンケートによりますと、多くのチームが、練習内容や方法を探りながらではありますが、今月や来月から練習再開を目指されていることも事実です。

実際にたくさんのチームが集まっての開催が難しいのであれば、開催の中止も検討いたしました。しかし、今後練習を再開されるチームにとっては、何らかの形で、発表の場を設けるべきである、という意見も強く出されました。

秋口までの多くの踊りに関するイベントが開催の中止を余儀なくされる中、どうすれば安全面の確保と、安心して参加できる祭りづくりを両立させることができるのか、議論を続けてまいりました。

そこで、今後は社会がコロナウィルスとの共存することへと変わっていく中、これまでの開催形態だけで模索を続けるのではなく、インターネットなども使った新たな形を計画いたしました。その第一歩として今年は、各チームや学校が、事前に撮影した動画を投稿してもらう形での、リモート(オンライン)開催に変更させていただきます。

10月11日(日)には、youtube(動画配信サイト)等を使って、事前に送っていただく各チームの趣向を凝らした動画(形式は全く自由です)を、スケジュールを組んで生配信してゆこうと考えています。リモートでの開催のため、これまでメチャハッピー祭を知らなかった、または参加する事が叶わなかったチームの方にも、楽しく参加をしていただきたい、そして世界のダンスチームからのご参加も頂きたい、と考えています。

また、今年に関しては参加費も無料とさせていただきます。集合型イベントの自粛や縮小開催が続く、せつかくここまで広がっている踊りやダンスの文化の灯を消したくない、そんな思いも抱いています。

ぜひ今年は、それぞれのチームが、思い思いの踊りを動画投稿という形で、ご参加を頂ければ幸いです。そして多くの方にご覧頂けるように、お声掛けのご協力もお願いします。

みんなで集い、楽しく踊ることのできる日を願いながら、ぜひとも今年の大阪メチャハッピー祭にご理解を賜れば幸いです。

従来ですとすでに参加募集を開始している時期ですが、今年に関しては8月末までに、参加の意思表示をして頂きたく思っています。そして動画投稿の締め切りは9月末頃を予定しており、いずれにせよ近日中にご案内をさせていただきます。

何卒、ご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具